

令和3年1月11日

各都道府県バレーボール協会
理事長・専務理事 様
全国連盟 部長・理事長 様

公益財団法人 日本バレーボール協会
審判規則委員会 委員長 小 柴 滋

新型コロナウイルス感染拡大防止対策徹底のお願い

拝啓 時下益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

平素は、バレーボール界のためにご支援、ご協力いただき感謝申し上げます。

現在、国内における感染者数が増加している状況の中、バレーボールの活動においても、感染が確認されるなどの事例が生起しております。審判規則委員会としてもガイドラインを作成し、各自における感染拡大防止対策はもちろん、行われるすべての活動においては感染予防対策を十分に講じた上で、選手・スタッフ及び審判員の健康管理をはじめ、手指の消毒の徹底をお願いしてきています。

今回春高バレーの大会において、試合の次の日に選手が発熱し、PCR検査を受検し陽性になったことを受けて、試合運営に携わった審判員およびコートオフィシャルが、濃厚接触者や検査対象者となった事案が発生いたしました。

つきましては、下記の内容についてご確認いただき、感染予防について再度ご周知頂きますよう、ご協力の程よろしくお願いいたします。

敬具

記

1 経緯

- (1) 試合後、選手1名が発熱のためPCR検査を受け、陽性が判明した。
- (2) 当該チームの前日の試合の以下のメンバーがそれぞれに該当するという事で、保健所の指導により濃厚接触者及び検査対象者に認定された。
 - ①濃厚接触者：当該チーム全員、対戦チーム全員、担当した主・副審
 - ②検査対象者：担当したスコアラー・アシスタントスコアラー・ラインジャッジ・コートオフィシャル
- (3) 検査の結果、以下の通りとなった。
 - ①濃厚接触者：当該チーム5名の陽性が判明、他のチームメンバーは陰性、担当主・副審は陰性。
 - ②検査対象者：全員陰性
- (4) 当該チームに5名の陽性者が判明したことを受けて、保健所の指導で、②検査対象者を全員、濃厚接触者と改めて認定された。

※保健所の指導内容

- ① 濃厚接触者と認定されたらPCR検査を受け、陰性となった場合、2週間自宅待機を指示
- ② 検査対象者と認定されたらPCR検査を受け、陰性となった場合、待機は不要となる。

2 大会としてのその後の対応

- (1) 主・副審については、ゴーグル・ホィッスルカバーを着用した。
- (2) その他の審判団については、マスクとフェイスシールドを着用した。

3 都道府県バレーボール協会および全国連盟（審判委員長）へのお願い

現在、日本全国で感染が拡大している状況です。濃厚接触者の判断は各保健所によって行われるため、今回の保健所の判断はあくまでも一例となりますが、審判員として大会に参加する際に、審判規則委員会のガイドラインに沿って感染予防対策を行っていただきましたが、私たちが想定していた以上の判断が下されました。

今後の大会運営につきましては、新型コロナウイルス感染対策のガイドラインを徹底したうえで、審判員への感染拡大、または審判員が起因となる感染拡大を防止するためにも、下記の対策例を参考にいただき、各大会での感染予防についてご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

【審判団における感染予防の対策例】

- ・主審、副審 : ホィッスルカバー、ゴーグル等の着用
- ・スコアラー、アシスタントスコアラー : マスク、フェイスシールドの着用
- ・コートオフィシャル : マスク、フェイスシールド、手袋の着用

本件についての問合せ先

審判規則委員会 委員長 小柴 滋

e-mail vb.5916shige@nifty.com

携 帯 090-8847-8453